

令和5年度

事業報告書
一般会計収支計算書

自 令和 5年 4月 1日

至 令和 6年 3月 31日

社会福祉法人

新宮市社会福祉協議会

令和5年度 社会福祉法人新宮市社会福祉協議会事業報告

現在、わが国においては本格的な少子高齢化や人口減少の時代を迎えようとしており、各分野で担い手不足が顕著となっています。特に福祉分野の人材不足は深刻化しており、福祉サービスの提供体制を揺るがしかねない状況にあります。地域福祉の人材についても、働く高齢者の増加等により、民生委員・児童委員や自治会・町内会等の担い手の減少が課題となっています。また、価値観やライフスタイルの変化の中で個人主義が強まり、孤独・孤立など関係性の希薄化による生活困窮者に関する問題も広がっています。

このような状況に対応するため、国は地域共生社会の実現に向けて社会保障や社会福祉制度を改正し「包括的な支援体制の整備」を自治体の努力義務とするなど、社会福祉協議会としてはこれまで以上に行政とのパートナーシップが重要となっています。本会においても市担当課と地域福祉推進のために必要な事業や財源等について定期的に協議する場を設けました。

また、「地域福祉の施策化」により市町村社会福祉協議会を取り巻く情勢が大きく変化しているなか、社協本来の役割を果たすために地域に出向いて生活課題や社会資源を把握し、課題解決に向けて地域住民の皆様や様々な福祉組織、関係機関とのつながりを構築しながら地域福祉を推進していくための基盤整備に努めました。令和5年度は第4次地域福祉活動計画（令和6年4月～令和10年3月）の策定年度であり、策定委員会を設置し令和6年3月4日に答申を受けました。前回計画から積み重ねてきた「つながり」を基に地域生活課題の解決に取り組み、誰もが安心して過ごすことのできる「ともに生きる豊かな地域社会」づくりを推進してまいります。

介護保険事業部では経営改善の取り組みとして新宮ステーションの売却、移転や組織体制の強化を図りましたが計画通り実行することができず、令和5年度決算では赤字となりました。制度改正や介護人材の不足など、経営環境は目まぐるしく変化しているため、今後は中期的な経営方針を示したうえで安定した経営に向けて取り組んでまいります。

〔令和5年度重点事業報告〕

1. 第3次新宮市地域福祉活動計画推進委員会答申に基づく課題解決に向けた取組みの推進

①住民の主体性が発揮できる支援

新型コロナウイルスの5類移行に伴い、地域活動が再開され住民主体の活動も活性化された。地区懇談会等を通じて地域住民、福祉組織、関係団体等と課題を共有しながら主体者として解決に取り組む住民の方を下支えし、一緒に達成感を感じることができるよう支援を実施した。千穂第1地区では住民主体による組織「千穂第1地区地域支え愛プロジェクト」が創設され、各団体や地域住民同士のつながりづくりを目的として行政の協力も得ながら防災避難訓練を実施した。訓練自体も大変有意義なものであったが、実施に向けて地域住民を主体とした実行委員会を設置し、何度も会議を重ねることで顔の見える関係性ができ、今後地域の課題解決に取り組むうえで、大きなネットワークが構築された。

②広い視野をもった地区活動の推進

目の前の課題にとらわれず、第3次地域福祉活動計画の全体像を踏まえながら、各地区の進捗状況に応じて第4次地域福祉活動計画も視野に入れ活動した。また、広いエリアの地区では細分化して地区懇談会を開催するなど、その地域に暮らす人々が自分たちの地域の課題を身近に感じてもらえるよう、地域住民等と協働で取り組んだ。

③地区担当職員の情報共有の場づくり

地区担当職員の把握した課題や地域の状況を共有するための会議を毎週開催した。また、困難ケースについてはケース会議等を開催し関係機関や行政等と協働で課題解決に向けて取り組んだ。

2. 第4次新宮市地域福祉活動計画（令和6年4月～令和10年3月）の策定

第4次地域福祉活動計画の策定にあたり、策定委員14名、アドバイザー1名の委員により策定委員会を設置し、令和6年3月4日に社協会長に答申した。計画策定にあたり、市内8地区において地区懇談会を開催し、共通の課題として少子高齢化やライフスタイル、価値観の変化等によるつながりの希薄化と担い手不足が挙げられた。また、介護、障害に関する問題や経済的困窮、社会的孤立、移動、買い物支援など、個別の生活課題を抱えている方も多く見られ、これらの課題を地域住民や地域に存在するあらゆる関係機関、福祉組織等が協働で解決に向けて活動できるよう、「つながりづくり」「担い手の育成・発掘」が目標となっている。

3. 介護保険事業の経営改善に向けた取組み

介護人材の不足や経営環境が常に変化している状況のなか、収支改善に向けた取組みとして介護保険事業部の収入の大部分を占める訪問介護事業の組織体制を整備し経営基盤の強化を図ったが収支改善までには至らず今年度も赤字となった。今後は赤字の要因を分析し、制度の動向等を把握しながら中期経営計画において収支改善の取組みを具体的に示していくとともに、令和6年度に着手できる部分は実行していく。

〔事業別実施報告〕

1. 会の運営と組織基盤の確立

(1) 理事会・評議員会の開催

〔理事会〕

- | | |
|-------------|--|
| 令和5年 6月 1日 | <ul style="list-style-type: none">・ 令和5年度事業報告並びに法人全体収支決算について・ 任期満了に伴う次期役員候補者の選定について・ 退任に伴う評議員候補者の選定について・ 任期満了に伴う評議員選任・解任委員の選任について・ 令和5年度第1回評議員会（定時評議員会）の開催について |
| 令和5年 6月22日 | <ul style="list-style-type: none">・ 会長、副会長の選定について |
| 令和5年 8月10日 | <ul style="list-style-type: none">・ 令和5年度第1次収支補正予算案について・ 定款の一部改正について・ 令和5年度第2回評議員会の招集について・ 第4次地域福祉活動計画の策定について |
| 令和5年 10月12日 | <ul style="list-style-type: none">・ 会長の職務執行状況の報告について・ 令和5年度フードパントリー事業の実施について |

- ・新宮市社会福祉協議会中期経営計画の策定について
- 令和6年 1月25日
 - ・経営の在り方検討会答申に基づく取組み及び今後の課題について
 - ・中期経営計画の策定方法について
- 令和6年 3月14日
 - ・会長の職務執行状況の報告について
 - ・令和5年度第2次収支補正予算案について
 - ・令和6年度事業計画・予算案について
 - ・役員等賠償責任保険の更新について
 - ・新宮市社会福祉協議会中期経営計画の策定について
 - ・令和5年度第3回評議員会の招集について
- 〔評議員会〕
- 令和5年 6月20日
 - ・退任に伴う評議員の選任について
 - ・任期満了に伴う評議員選任・解任委員の選任について
 - ・令和5年度事業報告並びに法人全体収支決算について
 - ・理事の任期満了に伴う新理事の選任について
 - ・監事の任期満了に伴う新監事の選任について
- 令和5年 8月22日
 - ・令和5年度第1次収支補正予算案について
 - ・定款の一部改正について
 - ・第4次地域福祉活動計画の策定について
- 令和6年 3月26日
 - ・令和5年度第2次収支補正予算案について
 - ・令和6年度事業計画・予算案について
 - ・新宮市社会福祉協議会中期経営計画の策定について

〔監事監査〕

令和5年 5月22日 監事2名により令和4年度事業執行状況並びに計算書類等について監査を実施しました。

(2) 正副会長会議の開催

毎月会長、副会長、事務局職員で理事会の議案や社協の運営全般にわたり協議しました。

(3) 自主財源の確保と会員加入の促進

①社協会費会員の加入状況

| | |
|-----------------|----------------------------|
| 個人会員（1口 500円） | 1345口（4年度 1,453口） |
| 賛助会員（1口 3,000円） | 180口（4年度 200口） |
| 特別会員（1口 5,000円） | 44口（4年度 41口） |
| 法人会員（1口10,000円） | 37口（4年度 37口） |
| 会費収入合計 | 1,802,500円（4年度 1,901,500円） |

| | |
|----------------|---------------------------|
| ②赤い羽根共同募金配分金 | 1,491,000（4年度 1,656,000円） |
| 歳末たすけあい配分金 | 1,350,699（4年度 1,338,342円） |
| 新宮いのちの募金配分金 | 397,000（4年度 247,100円） |
| MACHIサポート募金配分金 | 494,000（4年度 400,000円） |

(4) 職員研修等の実施

・職員研修等で人権について学ぶ機会を設け、職場全体で人権意識の向上に努めました。

「身近な人権 ～あなたの思い込みは正しいですか？」

講師：新宮市人権教育指導員 谷 嗣弘 氏 3月12日

・訪問介護員研修会（毎月）

(5) 広報誌等の発行

社協広報誌「アシスト」を毎月発行（全戸配布）

2. 第3次地域福祉活動計画の推進

(1) 第3次地域福祉活動計画の基本目標の推進

第3次地域福祉活動計画の最終年度となるため、最終評価と第4次地域福祉活動計画の策定にあたり策定委員会を設置し、計4回開催しました。コロナ過もあり計画通りに実施できなかった部分もありましたが、「人育て」「まち育て」「ネットワーク育て」の3つの柱を意識しながら各地区の課題解決に向けて、地域住民や福祉組織、学校など関係機関と協働で取り組むことで地域福祉を推進するための基盤が少しずつ整備されてきました。

(2) 各地区の課題への取り組み

少子高齢化による担い手不足や生活課題を共有する場の設置など、計画通りに実施できなかった部分もありましたが、団体間の横のつながりや小規模イベントの開催、新たな集いの場の創設など、課題解決に向けて計画通りに取り組めた地区もありました。また、取り組みの見直しが必要な地区については、地区懇談会等で話し合い、第4次地域福祉活動計画にも反映させていくことができ、地域の状況に応じて地域住民や関係機関と連携しながら取り組むことができました。

(3) 地区懇談会の実施

第3次地域福祉活動計画の振り返りと第4次地域福祉活動計画の策定に向け、市内8地区において地区懇談会を開催しました。また、3月に第4次地域福祉活動計画の答申を受け、各地区における目標や課題、今後の取り組み等について地域住民等と共有するための地区懇談会を開催しました。

3. 地域福祉事業の推進

(1) 生活支援コーディネーターの受託

【第1層生活支援コーディネーター（市内全域）】

令和5年度は新型コロナウイルスの影響も徐々に軽減され、地域活動（ふれあいいいききサロン・居場所等）を再開する地区も増えました。また、各地区で開催されている会議やサロン等に積極的に参加することで生活支

援コーディネーターの存在を知ってもらう機会になりました。社協地区担当者と地域に出向き、地域活動に取り組みられている団体の把握や、既存の活動団体の支援を積極的に行いました。

また、住民同士の支え合いや介護予防を推進するため、地域住民の居場所作り、社会資源や行政支援の情報提供、人的支援などを提案するとともに、他の地区の好事例を紹介するなど地域に寄り添った支援を継続しました。

生活課題（介護、認知症等）についても市地域包支援センターや社協・関係機関と連携し、地域ケア会議等への参加や課題解決に向けた支援を行いました。

① 地域支え合いフォーラムの開催

「住み慣れた地域でいきいきと暮らしたい」という思いを実現するために、今後地域で必要とされる「支え合い」について地域住民と一緒に考え、理解を深めることを目的にフォーラムを開催しました。「支え合い」を広げていくためには地域の横のつながりを深めていくことが重要であることを感じていただき、新たな地域活動にもつながりました。

開催日：令和5年 9月24日（日）13時30分～15時00分

会場：新宮市福祉センター 集会室

参加人数：71名

内容：地区の取組発表 「高田区の野菜市」 発表者 石田 千代（高田地区福祉委員）

「千穂第1地区の取り組み」 発表者 池上 徹（社協職員）

基調講演 「みんなが支え合い、誰もが活躍できる新宮市のために」

講師 摂南大学 現代社会学部講師 上野山 裕士氏

② 地域支え合い勉強会（地区別）の開催

市内8地区の住民を対象に生活支援体制整備事業や新宮市の高齢化の状況、支え合いの必要性について説明し、地域課題の共有及び課題解決に向け、住民や関係機関等と協働で取り組んでいけるよう交流会（話し合いの場）を開催しました。

<開催状況>

2月13日 千穂第一地区 参加人数：13名（福祉センター）

2月20日 蓬萊地区 参加人数：13名（福祉センター）

2月29日 王子（松山梅ノ木地区） 参加人数：8名（松山隣保館）

| | | |
|-------|--------------|---------------------|
| 3月 1日 | 王子（下田地区） | 参加人数：12名（下田隣保館） |
| 3月 7日 | 王子（王子熊野地地区） | 参加人数：19名（王子会館） |
| 3月 8日 | 王子（田鶴原清水元地区） | 参加人数：10名（王子会館） |
| 3月26日 | 高田地区 | 参加人数：20名（高田交流センター） |
| 3月28日 | 熊野川地区 | 参加人数：21名（熊野川開発センター） |
| 3月29日 | 三佐木蜂伏地区 | 参加人数：9名（佐野会館） |

③ その他の取組み

- ・昨年度に引き続き、蓬萊地区の居場所「ゆったりカフェ」（認知症カフェ）を月2回開催しました。蓬萊地区の居場所として主催者の生きがいづくりや地域住民同士のつながりの場となっています。
- ・佐野地区の介護事業所から空き家の提供があり、事業所有志メンバーが中心となって令和5年10月から新たな居場所として「村瀬さん家」を月1回開催しました。近隣住民が「ちょっと一息できる場所」として住民同士（多世代交流）のコミュニティ作りを目的として開催しました。
- ・千穂第2地区「わがら広角」では新たな活動として、広角地域にある蒟竹笑にて「蒟竹笑モーニングカフェ」を月1回実施し地域の憩いの場となっています。また、「わがら広角会館開放日」を月1回開催し、多世代が参加できるメニューを実施することで子育て世代の参加も増えました。
- ・「チームくまのがわ」は13年前の紀伊半島大水害経験のある地域であることから、三重県桑名市の市会議員が視察に来られ、住民主体の防災活動や防災についての意見交換会をメンバーと行いました。将来予想される大災害に備え、住民同士のつながりや助け合いの必要性を再認識できました。

【第2層生活支援コーディネーター（高田・熊野川）】

高田・熊野川地域の高齢者が、住み慣れた地域で生きがいを持って在宅生活を継続していくために必要となる生活支援・介護予防サービスの提供体制を構築するため、支援ニーズとサービスのコーディネート機能を担い、サービスを提供する事業主体と連携して支援体制の充実・強化を図ることを目的として取り組みました。

熊野川地区で開催されているサロンにおいては各地区13カ所を毎月訪問し、居場所やつながりづくりの場として支援しました。高齢化が高い地域であることから熊野川地域包括支援センターと連携を図り、介護予防や地域課題について情報共有しました。また必要に応じて民生委員児童委員、チームくまのがわの定例会に参加し地域のニーズ把握に努めました。

高田地区では住民主体による地域活動が活発に行われており、グラウンドゴルフ大会やお出かけ・買物サロン、福祉委員定例会、野菜市や敬老会、住民主体の組織「高田区」（旧村づくりの会）の活動に参加、協力することで、地域に存在する様々な主体との関係づくりに努めました。地域課題として挙げた発災時の初動期対応については、先進地の視察や初動期対応訓練を地域住民や様々な主体と協働で実施したことにより、防災意識の向上や支え合いのネットワークを広げるきっかけとなりました。

（２）小地域ネットワークづくり事業の推進

①あらゆる生活課題を受け止める相談支援体制の整備

地域のサロン活動への参加や生活支援コーディネーターとの連携により、属性を問わずあらゆる相談に対応しました。

②アウトリーチの徹底

地区担当職員が地域に出向いて生活課題を抱えている一人暮らし高齢者や一人親世帯等を把握し、必要に応じてケース会議を開催するなど多職種、多機関連携で課題解決に向けて取り組みました。また、自治会、民生委員児童委員、福祉委員、関係団体等と交流を図り、顔の見える関係性を構築することで潜在的な生活課題の把握も積極的に行いました。

③地域住民や各種団体等が地域の課題や解決策を検討するための場づくり

地域の課題に対して、地域住民や様々な主体が中心となって課題解決に取り組めるよう、生活支援コーディネーターと連携し、地域支え合いフォーラムや各地区での勉強会を通じて、課題を共有する場の必要性を伝えました。また、市内８地区で地区懇談会を開催し地域の課題について情報共有しましたが、解決策を検討するまでには至りませんでした。

④生活支援コーディネーターとの連携

アウトリーチやサロン活動等により把握した課題については毎週ミーティングを開催し、部内及び生活支援コーディネーターと情報共有し、課題解決に向け関係機関と連携しました。

⑤SNSによる地域活動等の情報発信

各地域の活動について社協広報紙やインスタグラム、フェイスブック、ブログにより随時発信し、地域活動の活性化及び社協活動の「見える化」に取り組みました。

⑥民生委員児童委員、区・町内会との連携

市民児協の事業や地域支援、個別支援への取組みを通じて民生委員児童委員との関係性を深めました。また募金活動や助成金事業を通じて区・町内会長との連携を強化しました。

⑦地域活動の新たな担い手の発掘

各地域の課題解決に向けた取組みや社協の事業を通じて新たな担い手の発掘に努めました。今後も多世代が参加できるイベントや行事等を開催し、新たな担い手の発掘に取り組んでいきます。

⑧各種団体等による住民主体のサロン活動の支援

社会的孤立感の解消や引きこもりによる心身機能の低下を予防するため、住民が主体となってサロン活動を展開できるよう支援しました。また、地区担当者がサロンに参加することで新たな生活課題や困りごとを把握する機会となりました。

丹鶴地区

- ・福祉委員がホウ酸団子を作り、見守りを兼ねて地域住民に配布。
- ・高齢者の熱中症予防と多世代交流を図る目的で夕涼みサロン（かき氷）を開催し、今後の見守りにつながる活動を行った。
- ・健康体操サロンの実施。（毎月3回開催）

千穂第1地区

- ・「千穂第1地区地域支え愛プロジェクト」を発足。地域の横のつながりを作るためのきっかけづくりとして千穂第1地区防災避難訓練を実施。地域住民194名 スタッフ64名 合計258名参加
- ・グラウンドゴルフを神倉小学校で月2回開催。
- ・月1回の健康マー جانを開催。
- ・神倉小学校通学時の朝の見守り活動。（毎月第1月曜日、午前7時半～）
- ・健康運動指導士による介護予防体操教室の開催（年3回実施）
- ・ホウ酸団子作り、貼り絵、雑巾縫い、折り紙サロンの開催。
- ・高田雲取温泉へのお出かけサロン（グラウンドゴルフ、カラオケの開催）

千穂第2地区

- ・福祉委員のサロンについては、ホウ酸団子作りや介護予防体操、また高田へ出向いてのグラウンドゴルフを行い、地域住民との交流を図った。
- ・毎日、広角用地グラウンドを活用しグラウンドゴルフを開催している。地区外の方も参加され幅広い交流

の場となっている。

- ・地域の居場所「蒟竹笑」では新たな取り組みとして月1回モーニングカフェを開始し、多数の地域住民が訪れている。
- ・広角会館では「わがら広角」が地域の幅広い世代の方々と交流することを目的とし、月1回イベントや行事を開催している。

王子地区

- ・福祉委員のサロンについては王子会館にて月2回実施。ゆる体操、ホウ酸団子の配布、高田グリーンランドへのお出かけサロンを実施。また、歳末たすけ合い募金助成金を活用してクリスマスゲーム大会を開催。
- ・月1回王子会館で手芸や講座等に加え、障がい者就労支援作業所との連携（パンの販売）による「王子おやつサロン」を実施。
- ・月2回松山隣保館で布草履作りや、手芸等が行われる「松山サロン」を実施。また令和5年12月15日には歳末たすけ合い募金助成金を活用し、地域住民によるクリスマスミニコンサートを開催。

蓬萊地区

- ・ホウ酸団子作りサロンの実施。
- ・福祉委員が手縫い雑巾を作り、蓬萊保育所に寄贈。（100枚）
- ・健康運動指導士による介護予防体操教室の実施。（年3回実施）
- ・薬剤師による薬の多剤服用の講座。
- ・蓬萊地区の中道町親睦会にて、ゴミ出しのついでにラジオ体操を週2回実施。
- ・民踊教室を週2回実施。
- ・蓬萊会館にて福祉委員がクリスマス会を実施。
- ・誰もが気軽に立ち寄れる場として、地域の居場所「ゆったりカフェ」を月2回開催。

三輪崎地区

- ・健康運動指導士による介護予防体操教室の開催。（年2回実施）
- ・福祉委員によるサロン、グラウンドゴルフ大会を実施。また、12月26日にはクリスマス会を実施。
- ・佐野区では新たな地域の居場所として「村瀬さん家」が発足し、近隣住民が気軽に集う憩いの場所となっている。

高田地区

- ・地域協力隊によるお出かけサロンを年1回実施。

- ・ふれあいグラウンドゴルフを月2回実施。常時15人程度が参加し休憩時にはお茶やお菓子を食べながら住民同士が会話し居場所となっている。
- ・敬老の日の行事とし高齢者を里会館に招待して手作りの赤飯を提供した。参加できない方には見守りを兼ねて自宅訪問した。
- ・福祉委員のサロンとして介護予防体操教室を実施（年3回）
- ・地域住民の方が野菜市を月1回開催しており、集いの場となっている。
- ・里会館にてお楽しみ交流会を月1回開催。地域住民が食事しながら会話し見守りにもつながっている。

熊野川地区

- ・熊野川ふれあいきいきサロン13ヶ所（19地区）で開催。地域住民同士の交流や見守りの場となっている。

（3）福祉委員活動の推進

①登録者数 令和5年3月末現在 8地区合計 323名（令和4年3月末現在312名）

②正副委員長会議の開催

地区福祉委員会正副委員長会議 年6回開催

③見守り活動の推進

各地区において、サロン活動や赤い羽根共同募金助成金の活用により見守り活動を実施した。

④研修会の開催

- ・令和5年 7月 4日 認知症サポーター養成講座 新宮市地域保健課 東氏、畠氏
- ・令和5年12月14日 視察研修（上富田町福祉センター）
「まちかどカフェについて」「たすけあいくちくまのステーションについて」
40名参加

⑤地区福祉委員会ごとに定例会及び研修会を開催

各地区の状況に応じて定例会を開催した。

⑥ふれあい交流事業への協力

各地区の福祉委員による見守り活動の充実や高齢者の介護予防を目的として開催した。

丹鶴地区

3月10日 丹鶴地区ふれあい交流会実行委員会（福祉委員・民生委員児童委員協議会・公民分館・社協）により、丹鶴ホールにて開催。エイサー太鼓・フラダンスの催しの他に、新宮市自治会連合会特別講演では防災講話を実施。参加者約200名

千穂第1地区

12月25日 ご近所との交流が減少する中、地域住民の交流や生きがづくり、引きこもり防止等を目的として交流会を開催。高田グリーンランドにてグラウンドゴルフやカラオケ、温泉入浴等を行った。区内26町内会に回覧し周知を図った。

千穂第2地区

12月13日 地域住民同士の交流を図る目的とお正月気分を自宅でも感じてもらうため「寄せ植え」を実施。色とりどりの寄せ植えを行った。参加者42名

蓬萊地区

3月16日 蓬萊体育館にてふれあい交流会を開催。マジックサークル青い鳥さんのマジックショーや、ゲーム（輪投げ、ストラックアウト等）を行い、高齢者とその家族も参加され、多世代交流の場となった。参加者70名

王子地区

10月18日 地域住民を招き王子会館でレクリエーションの道具を活用した景品付きのゲーム大会を開催。参加者35名

三佐木蜂伏地区

11月25日 地元有志の民踊や大正琴、マジックサークル青い鳥のマジックショーなどの催しを楽しんだ。参加者95名

高田地区

12月10日 高田・相賀区の70歳以上の高齢者が集い、歌や演奏、福引抽選会などを通して交流を図った。また、小・中学校による合唱やレクリエーション、杉の郷えぼし寮施設長によるギターの弾き語り等、地域密着型のふれあい交流会を実施。見守り活動も兼ねて福祉委員が送迎を行った。参加者40名

熊野川地区

11月14日 区長連絡協議会・熊野川公民分館・熊野川地区民生委員児童委員協議会・熊野川地区福祉委員

会・ゆうゆうクラブ熊野川支部の5団体共催によるふれあい交流事業（グラウンドゴルフ大会）を実施。参加者120名
3月14日 65歳以上の高齢者を対象に熊野川ふれあいお楽しみ会を実施し、歌や踊りを楽しんだ。
参加者174名

（4）福祉のまちづくり事業の実施

①障がい児激励事業（12月20日）

昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により「新春お楽しみ会」は中止となりましたが障害児父母の会が会員約56名に日用品やお菓子、弁当を配布しました。

②「愛の日」バザー（11月15日）

新宮市婦人連絡協議会協力により、4年ぶりに開催 売上金 53,147円

4. ボランティア活動事業の推進

（1）ボランティア・市民活動センター事業

活動の異なる様々な団体が協働して誰もが住みよいまちづくりを目指すとともに、登録している団体・個人がボランティア市民活動センターに常駐し一般市民対象の行事を開催するなど、ボランティア活動への参加促進を図っています。登録数 84団体、個人26名（4年度 84団体・個人25名）

① 運営委員会の開催

10名の運営委員及び監事2名により毎月開催（12回）

② 広報・啓発

・社協広報誌「アシスト」にコーナーを開設、また参加団体や社協役員、評議員に会報「結夢だより」を発送しました。

・掲示板を利用し、参加団体またはセンターの催しなどの情報提供とともにブログにて情報発信しました。

③ 交流と連携（ネットワーク）の促進

5月24日 総会

6月27日 和歌山県NP0/ボランティア中間支援組織意見交換会（オンライン開催）

11月 9日 ボウリング交流会 ボランティア登録（団体・個人）参加者14名

④ 勉強会、研修会の開催

9月 6日 「特殊詐欺被害の実態」 和歌山県警察本部生活安全企画課

特殊詐欺被害防止アドバイザー 脊古 佳 氏

楠本 研 氏

「これからの感染症について」 新宮保健所 下野 尚悦 氏

3月14日 紀宝町VCとの交流会（紀宝町福祉センター） 参加者18名

（内容）各VCの活動紹介、コロナ禍の活動について、紀宝町VC「災害ボラコ」について

⑤ 「しんぐう元気フェスタ」の開催

市内の関係機関とボランティア・市民活動センターが協働で、市民の方々がボランティア活動に参加するきっかけづくりや地域の活性化を目的として開催。コロナ禍では規模を縮小して実施してきたが、今年度は1月1日に発生した能登地震による被災地支援チャリティーイベントとして開催しました。義援金や被災地に向けた応援メッセージを撮影するとともに、飲食コーナーも設け昨年度より規模を拡大し多くの方に参加していただきました。

来場者数 約300名 義援金総額194,068円（石川県共募へ送金）

⑥ カルチャーサロンの開催

登録団体の協力により、8サロンを計139回開催。（3年度8サロン 124回）

今年度は、絵手紙教室・ゆる体操・マジック教室・ちぎり絵教室・折形教室・布ぞうり作り教室・盆点前教室・着物リフォーム教室を開催。筆文字教室はコロナ以降休止。

（2）ボランティアコーディネート事業

① ボランティアの育成

〔研修会等の開催〕

・ ボランティア養成講座の開催

小中学生を対象とした「手話教室」は新型コロナウイルスの影響により中止
〔福祉教育の推進〕

- ・ 6月29日 福祉教育担当者会議の開催
市内小・中・高校の福祉教育担当者に社協の事業説明や福祉体験講座の案内等を行った。
- ・ 福祉体験講座の開催
点字・車いす・高齢者疑似体験講座などの出張講座を開催。
小学校4校、高校1校、新宮市医師会准看護学院1校 延べ8回開催（4年度6校6回）
- ・ ボランティアスクールの開催 8月1日から3日まで（3日間）
新型コロナウイルスの影響により3年ぶりの開催となり、市内の高校生8名が参加。通常より規模を縮小し、学童や児童館のみを対象に体験学習を行った。

② ボランティア活動の支援

相談、活動支援

（朗読サービス）

毎月市広報誌と社協広報誌「アシスト」をカセットテープに吹き込み、声の広報として発送。

利用者4名 ボランティア やすらぎグループ「声」

（点訳サービス）

点字ボランティア「てんとう虫」により、毎月市広報誌と社協広報誌「アシスト」を点訳し発送。

利用者5名

5. 要援護者支援事業の推進

（1）福祉サービス利用援助事業

判断能力が不十分な高齢者、知的障がい者・精神障がい者等が地域で安心して自立した生活が送れるよう福祉サービスの利用手続きや公共料金等の支払い、通帳や証書の預かりなどの支援を行っています。また、専門員連絡会や生活支援員研修会、利用者のケース会議等へ参加し、サービスの向上を図っています。

法人後見事業について、地域福祉権利擁護事業で培った高齢者や障がいのある方への支援方法の知識・経験を活かし、ご本人の意思を尊重した支援を行います。また、社会福祉協議会の特徴を活かし、地域住民や福祉・法律の関係機関と連携し、ご本人を中心とした見守りのネットワークを構築します。

契約件数19件（高齢者8名、知的障がい者7名、精神障がい者2名、身体障がい者2名）※3月31日現在
（4年度契約件数25件）

(2) 生活困窮者支援制度への協力

市福祉課の自立相談支援員と連携し、生活が困窮している方に対して生活再建に向けての相談や生活資金の貸付を実施しました。

(3) 福祉車両貸出事業 貸出件数 58 件 (4 年度 77 件)

(4) 車椅子貸出事業 貸出件数 61 件 (4 年度 65 件)

(5) 紙おむつ半額助成事業 新宮市から紙おむつの給付を受けている方で社協会員を対象に実施。

利用者数 10 名 (4 年度 7 名)

(6) 貸付事業の実施

・生活福祉資金貸付事業 (県社協受託事業)

低所得者世帯の生活の安定と経済的自立を図るために和歌山県社会福祉協議会からの受託事業として実施しています。令和 5 年 1 月より一部を除く方の償還が開始されており、引続き困窮されている方の状況把握や対象者への免除申請の案内やサポート、関係機関との連携等により継続的に支援を行っていきます。

◎本則による貸付 0 件 0 円 (4 年度 3 件)

◎特例貸付決定件数 731 件 256,221,000 円 (令和 2 年 3 月 25 日～令和 4 年 9 月 30 日)

◎特例貸付免除決定件数 369 件 128,920,700 円 (令和 4～5 年度累計)

・緊急小口資金貸付事業

10 万円を限度に緊急を要する低所得者に貸付しました。

貸付件数 10 件 447,250 円を貸付 (4 年度 5 件 460,830 円)

6. 災害時対応事業の推進

(1) 災害ボランティアセンター設置・運営訓練の実施

県災害ボランティアセンター (県社協) 及び県内市町村社協と合同による広域同時多発災害訓練を実施する予定でしたが、訓練当日フィリピン沖で発生した地震による津波の影響で中止となりました。訓練自体は中止となりましたが、災害ボランティアセンター設置に至るまでの過程を関係機関とシミュレーションできたことや、蓬萊地区を被災地区と想定し地域住民や民生委員児童委員・福祉委員・町内会、高等学校、関係団体等と訓練実施に向けて協力・連携することによりネットワークを広げることができました。

(2) ボランティア・市民活動センターとの連携

毎年、災害ボランティアセンター設置運営訓練時にご協力いただいておりますが、今年度は訓練が中止となったため連携できませんでした。

(3) 和歌山県社会福祉協議会（和歌山県災害ボランティアセンター）との連携

南海トラフ地震や大雨災害等を想定した場合、県社協単独で必要な運営支援を行うことは困難なため、市町村社協と県災害ボランティアセンターが一体となって、「先遣隊」「災害VC運営支援者」を養成し派遣する仕組みを構築しました。

- ・被災地災害VC運営支援の経験を有する職員を災害VC運営支援者としてリスト登録
- ・災害VC運営支援、中核スタッフ養成研修への参加

(4) 県下市町村社会福祉協議会における災害時の相互支援

平成24年1月30日に締結された「社会福祉協議会における災害時の相互支援協定」によって県内の市町村社協と災害時の相互支援について取り決めています。この協定に基づき令和6年能登地震被災地支援として石川県羽咋市社会福祉協議会に災害ボランティアセンター等の運営支援スタッフとして職員1名を派遣しました。（2月9日～2月15日）

7. 善意銀行の運営

178,488円(10件)の寄付金を受入れました。

(令和4年度 137,370円 7件)

8. 福祉サービスにおける苦情解決第三者委員会の運営

- ・第三者委員による検討事案はありませんでした。

9. 福祉関係団体との連携

(1) 民生委員児童委員協議会との連携

◎子育て支援事業

10月16日 熊野川おやこサロン3組

12月18日 クリスマス会「サンタさんと遊ぼう」20組

◎生活福祉資金貸付審査及び償還調査の依頼（貸付審査0件）

◎一人暮らし・寝たきり高齢者激励訪問事業の共催

(2) ゆうゆうクラブ（老人クラブ連合会）との連携

◎老人クラブ活性化の推進

クラブ活性化のため、老人が生きがいをもって活動できるよう連携しました。

◎女性部活動の推進

ゆうゆうクラブ会員（老人クラブ連合会）の多くが女性のため、女性部活動を充実させることで新規会員の獲得ができるよう連携しました。

・女性部交流会：グラウンドゴルフ大会（3月14日 広角用地 参加者67名）

・健康づくり教室：「楽しい音楽体操」（12月8日 市役所別館 参加者58名）

・栄養講習会：「糖尿病」予防について（12月12日 福祉センター 参加者24名）

◎生きがいと創造の事業の推進

健康、生きがいづくり事業として「生きがい・はつらつ教室」「老人菜園」の実施協力をしました。

・生きがいはつらつ教室 18教室 受講者 372名

・老人菜園 2カ所 利用者 62名

・愛の日ゆうゆうクラブ芸能大会への協力 10月5日（丹鶴ホール）参加者約300名

(3) 赤十字事業への協力

・日赤活動資金募集 お願い額4,080,000円に対し、実績額2,685,244円

（令和4年度 実績額2,425,793円）

(4) 共同募金運動への協力

・赤い羽根共同募金運動

募金が地域の活動に活かされ自分たちのまちを良くするために3つの募金活動「ささえ愛募金」

「MACHIサポート募金」「新宮いのちの募金」を実施しました。

目標額3,062,000円に対し、実績額3,170,555円（4年度 実績額3,012,044円）

・歳末たすけあい運動 1,360,132円の募金があり1,350,699円を配分

(4年度1,735,525円の募金があり、1,338,342円を配分)

【配分内訳】

| | |
|---------------------|------------|
| 町内会（1町内会） | 50,000円 |
| ボランティア市民活動団体（13団体） | 584,000円 |
| 一人暮らし・寝たきり高齢者激励訪問事業 | 300,000円 |
| 事務費 | 69,522円 |
| 障がい児激励事業 | 170,000円 |
| フードパントリー事業 | 177,177円 |
| 合計 | 1,350,699円 |

・フードパントリー事業

新型コロナウイルス感染症の5類移行後も、生活再建が困難な方や物価の高騰等で家計負担が大きくなっている生活困窮者世帯に対して、「歳末たすけあい運動」配分助成より食料等の提供及び生活相談の機会をつくり、各世帯の不安軽減を図りました。

実施期間：2月18日～2月22日

受渡世帯：43世帯

10. 指定管理者制度（受託事業）の推進

(1) 福祉センター管理運営

福祉センター貸館業務

高齢者の生きがい教室や研修会等への貸館業務を実施。

延べ利用者24,618名（令和4年度 17,630名）

高齢者入浴サービスの実施

福祉センターの浴室を毎週開放（火曜日女性、金曜日男性）

(2) 中央児童館の運営

子どもの健やかな育成を図るために、日々の遊びを通しての個別指導の他、集団でのクラブ活動、創作や季節行事、野外での自然体験活動、異世代間の交流事業など、様々な遊びを通して健全に発達していくよう

支援をしています。令和5年度も通常通りの開館でしたが、引き続き感染対策を行いながら活動しました。

① 運営委員会の開催（運営委員8名）

7月3日 令和4年度活動報告並びに令和4年度事業計画他について承認（6名出席）

② 利用状況

登録人員 382名 年間延べ利用者数 11,352名 開館日数236日 1日平均 48名

（令和4年度 386名 年間延べ利用者数 9,396名 開館日数238日 1日平均 39名）

③ 主な事業内容（ ）は参加人数

◎ クラブ活動を通して集団的援助活動

週1回実施：スポーツ火曜日クラス（20名）・スポーツ金曜日クラス（26名）・卓球クラブ（7名）
パッチワーク（12名）

月1回実施：わくわくクラブ（年長児14名）・にこにこクラブ（1年生15名） 計6クラブ

◎ ジュニアボランティアの育成

ジュニアボランティアクラブ（4～6年生対象 月1回の定例会と児童館行事の手伝い）

◎ 運動遊びを通じた体力づくりの推進

スポーツクラブ・ドッジボール等

◎ 未就園児の親子を対象にした子育て支援活動の実施

親子であそぼうクラブ（月2回 8組 計21回実施）

◎ 市児童館や子育て関係機関との連携

市子ども子育て会議

市子育てネットワーク会議

市児童館会議（3ヶ月毎に年4回開催）

児童館合同運動会 60名参加

児童館合同ドッジボール大会 70名参加

◎ 季節行事の実施

・ジャンボこいのぼり制作（29名）・七夕のつどい（24名）

- ・ハロウィンクッキー作り（34名）
- ・アドベントカレンダー作り（25名）
- ・クリスマスお楽しみ会（44名）
- ・年末大掃除（24名）
- ・かるた大会（13名）
- ・こままわし大会（5名）
- ・もちつき大会（39名）
- ・節分をたのしもう（16名）
- ・ひなまつり（22名）

◎創作活動や体験活動

- ・スライムづくり（18名）
- ・ギネス世界記録に挑戦（20名）
- ・館内デイキャンプ（14名）
- ・ゆうゆうクラブ女性部との交流おはぎづくり（20名）
- ・グラウンドゴルフをしよう（計2回23名）
- ・つくってあそぼう（計3回 延べ57名）
- ・夏休みお楽しみかき氷体験

◎その他の事業

- ・春のおたのしみひろば（58名）
- ・フロアホッケーをしよう（14名）
- ・東牟婁生活支援センターわかば園と交流「一緒に支えあうまちづくり」（15名）
- ・おはなし会（計6回 129名）
- ・こどもまつり（738名 スタッフ含む）
- ・遊び大作戦（25名）
- ・わたあめプレゼント
- ・春休みハイキング（30名）

◎保護者対象事業

保護者対象人権学習とセルフハンドトリートメント講座（6名）

1.1. 介護保険事業の運営

□内は前年度実績 ※少数点以下は四捨五入

(1) 居宅介護支援事業（ケアプランの作成）

| | | |
|----------------|--------------|--------------|
| 介護ケアプラン作成件数 | 488件（月平均41件） | 933件（月平均78件） |
| 介護予防支援計画 | 55件（月平均5件） | 133件（月平均11件） |
| 介護予防ケアマネジメント計画 | 12件（月平均1件） | 34件（月平均3件） |

(2) 訪問介護事業（ホームヘルプサービス事業）

・介護保険訪問介護（要介護1～5）

延べ利用者 23,297名（月平均1,941名） 29,672名（月平均2,473名）

訪問時間 23,162時間（月平均1,930時間） 28,937時間（月平均2,411時間）

・総合事業訪問型サービス（要支援1・2）

延べ利用者数 5,422名（月平均452名） 6,682名（月平均557名）

訪問時間 5,449時間（月平均454時間） 6,750時間（月平均563時間）

・障害者総合支援居宅介護事業（障害児者へのホームヘルプサービス）

延べ利用者数 8,291名（月平均691名） 9,235名（月平均770名）

訪問時間 8,182時間（月平均682時間） 9,181時間（月平均765時間）

・にこにこサービス（介護保険外自費サービス）

延べ利用者数 33名（月平均3名） 79名（月平均7名）

訪問時間 48時間（月平均4時間） 83時間（月平均7時間）

(3) 熊野川地域包括支援センター

・相談件数 225件（月平均19件） 198件（月平均17件）

・介護予防支援計画 74件（月平均6件） 82件（月平均7件）

・介護予防ケアマネジメント計画 82件（月平均7件） 123件（月平均10件）

・介護予防教室開催回数 22回 22回

参加人数 159名 112名